

世界に類を見ない、 町の“再創造”を支える仕事



行政職の正職員として、まちづくりに情熱を持ち、
共に働いてくれる方を募集しています



「夢と希望があふれ、住んでいたいまち、住んでみたいまち」

東日本大震災、原発災害により一度住民がゼロとなった浪江町では、
大規模な復興事業にチャレンジしています。

- 01 「浪江駅周辺整備事業」
- 02 F-REI（福島国際研究教育機構）立地に伴う
浪江町国際研究学園都市構想「キャンパスタウン」整備
- 03 「エネルギー地産地消のまちづくり」水素利活用の取り組み



など、政策づくりに携わる行政職の方には、ご自身の企画や調整などの仕事の結果がカタチとなり、
まちづくりへの貢献を直接感じられる、大きなやりがいがあります。

浪江町について

浪江町のこれまでの軌跡

2011-2012

震災により全町避難。
東日本大震災及び原発事故後、国の避難指示により町内への立入が制限。

役場業務

混沌の中、暗中模索の対応を余儀なくされる。
二本松市内に仮設庁舎建設、移転。

町民の方々の日々変化するニーズへの対応、復興に向け正解のない中での議論を重ね、「復興ビジョン」→「復興計画」を作成。

全国各地に避難した町民の方々を対象とした未知の行政運営。



2013-2016

警戒区域等から3つの区域に変遷。
町内での復旧活動が本格化。

役場業務

町民の方々との絆の維持、町内のインフラ復旧、買い物環境等、民間サービス確保の準備、除染などの復旧業務の数々をとにかく遂行。

町の再生の為にあらゆる種まきの時期。



2017-2024

2017年3月31日に避難指示の一部解除。
町民の方々の帰還が開始し、本格的な復興まちづくりのはじまり。

役場業務

町民の方々の帰還、生業の再生、雇用の創出、医療福祉サービスの確保、住環境整備など、具体的な町の再生業務を遂行。

設備などのハードから、運営などソフトの整備へ。



浪江町のいま

町内居住者（令和7年3月末時点）



住基人口
14,442人

町内居住
2,291人

東日本大震災当時の人口は、約21,500人でした。
浪江町内の居住者は、震災による避難指示により、一時0人となりましたが、平成29年3月の一部避難指示解除以降、徐々に戻り、現在は約2,291人が居住しています。

町の財政状況



ぐーんと
約 4 倍 UP

震災前（平成22年）と比較すると、令和5年の歳入・歳出決算は約4倍に増加。

→ 震災前とは予算額が大きく変わり、職員の働き方も変化

復興まちづくりの考え方

まちづくりの核となるエリアを足掛かりに町全体を再生。町民の方々の生活環境の向上、町の事業の再興のため、「復興拠点の中心」にコンパクトに各施設を整備しています。これらの整備に、役場職員は深く関わっています。

住まい・医療サービス



幾世橋住宅団地



浪江診療所

子育て環境・学校教育



浪江にじいろこども園



なみえ創成小学校・中学校

産業の再生



請戸漁港



カントリーエレベーター

交流・コミュニティ形成



道の駅なみえ



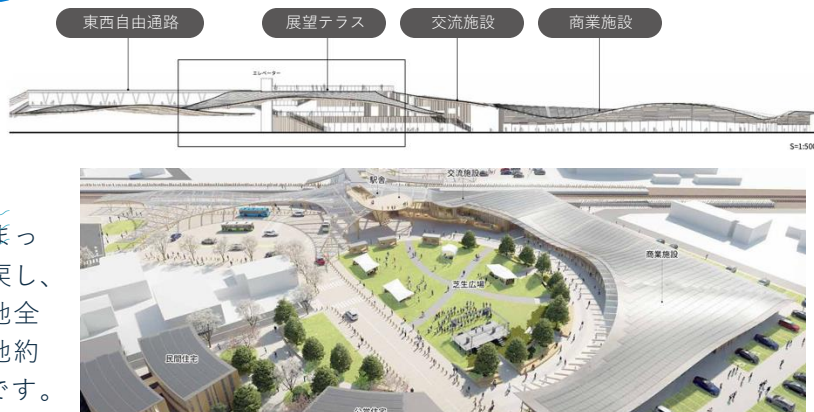
ふれあいセンターなみえ

大規模な復興プロジェクト

① 浪江駅周辺整備事業

人と町のつながりを生み出す
なみえループ

原発事故に伴う長期避難により荒廃してしまった町の顔でもある浪江駅前の賑わいを取り戻し、居住人口の回復や来訪者の増加、中心市街地全体の再生を目指して、浪江駅東西の市街地約11.6haの広大なエリアを再開発する事業です。



② 浪江町国際研究学園都市構想「キャンパスタウン」整備

浪江町内の福島国際研究教育機構（略称：F-REI）の立地に伴い、国際的なまちづくり、また町内のみならず広域的な地域の賑わい創出や住民生活向上を目指し、令和6年3月に浪江町国際研究学園都市構想を策定しました。



浪江駅周辺整備エリアと、令和12年完成予定のF-REI建設予定地を中心としたキャンパスタウンを形成し、地域と多様な主体の共生を促進する都市整備を進めます。

③ 「エネルギー地産地消のまちづくり」水素利活用の取り組み

浪江町は震災以降、原子力や化石燃料に頼らない「エネルギー地産地消のまちづくり」を理念に掲げ、ゼロカーボンシティの推進に取り組んでおり、「浪江町地球温暖化対策総合計画～なみえエネルギーチャレンジ2035～」を策定し、達成に向けて事業を進めています。



世界最大級の水素製造施設「福島水素エネルギー研究フィールド（通称FH2R）」を整備



約80台のFCVを導入



FCVの利活用モデル実証も展開



水素ステーション（2ヶ所）



公共施設のエネルギー需要100%を水素で賄う

浪江町役場の行政職として働くやりがい

町の未来を創る政策立案に携われる

企画調整や政策立案など町の将来に関わる重要な業務を担当します。ご自身の企画や調整などの仕事の結果がカタチとなり、まちづくりへの貢献を直接感じられる大きなやりがいがあります。課・係で情報を共有しながらチームで仕事をする事、町民の方との距離の近さも魅力の一つです。



行政職

坪倉 淳子

入庁/令和5年度入庁

所属/企画財政課 情報統計係



Q 浪江町役場を志望した理由

私は田村市で生まれ育ち、15歳、中学の卒業式の日に関東大震災に遭い、避難生活をしながらの学生生活となりました。その後、令和元年に新聞社に入社し、記者として4年間勤務。福島県内各地を取材する中で、浪江町を取材で訪れる機会がありました。

浪江町にはもともと町民だった方はもちろん、様々な人が集まってきている印象で、明るい活気を感じ、日々変化する町の姿に惹かれていきました。「一度住み暮らす人がゼロになってしまった町だからこそ、新しい取り組みが日進月歩で次々と進んでいる、魅力的な町」という印象でした。

当時、新聞記者の仕事は休みもあまりなく、働きづめだったので「もっと長い目で向き合える仕事がしたい」という思いで転職を考え始めました。浪江町役場職員の募集広告を見て、「町の復興と一緒に自分もイチから再スタートしたい」と応募しました。

Q こんな仕事をしています

今は浪江町の広報担当として多岐にわたる業務を担当しています。町の広報誌の制作では自ら取材に出かけ、原稿制作、写真撮影、記事の編集などを行います。紙面には制限があるため、どのページに何を掲載するか事前に企画書を作成し、計画的に進めています。

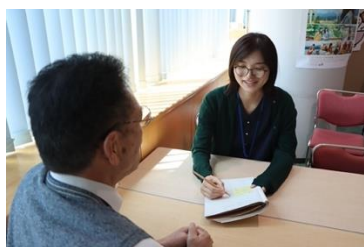
また、SNSを活用したイベント告知や浪江町に関する情報の発信、ホームページやX、Facebookなどの運営管理も担当しています。

広報の仕事は、自ら働きかけて情報収集することが必要になります。町のことをより深く知ることができ、復興の動きなど、町全体に詳しくなれるのも魅力です。

町主催のさまざまなイベントに参加していますが、それは単なる情報発信だけでなく町の歴史を記録する意味も持っています。例えば、町内の子どもの人数の推移などの一つひとつの記録が、世界的にもまれな状況に置かれた浪江町の重要な記録となります。



公用車で移動し、取材に向かいます



取材では、「傾聴」を意識しています

力を入れている一つにドローンを使った空撮があります。復興事業の工事の進捗状況などを上空から撮影して広報誌に掲載すると、町民の方々から大きな反響があり、「自分の家が写っていて懐かしい」「写真が欲しい」という問い合わせも多く寄せられます。避難している方々にとって、空からの町の様子は特別な意味を持っていると感じました。



ドローン操縦し空撮を行います



ドローンで撮影した浪江町役場

地域と人に貢献していると実感できる仕事を求めて、 浪江町役場へ



Q 浪江町役場の魅力・やりがい

「浪江町で働く」ということ、これだけで大きな意味があると思います。

前職は民間企業でしたから、やはり他社との競争や自社に貢献することがやりがいでしたが、今は「浪江町が復興していくことは、福島県、ひいては日本の未来を左右する。その重要な仕事の一端を担っている」という自負に支えられています。地域再生という大きな流れの中で働けることで、仕事により深い意義を感じられるようになりました。「大変なことがあっても大丈夫」と思える心の支えになっています。

また、広報の仕事を通じて特に印象に残っているのは、避難生活を送る高齢者の方から「広報なみえが毎月届くのが楽しみなんだ」とお電話で言っていたことです。また、毎月の広報誌に掲載される人口データをスクラップして記録している町民の方もいらっしゃいます。ふるさとに帰ることができない方々にとって、広報誌は町の様子を知り、ふるさとへの思いを持ち続けるための重要な情報源となっています。この役割の大切さを日々感じながら仕事に取り組んでいます。

Q 職場の雰囲気

他自治体からの応援職員の方が予想以上に多く、驚きました。様々な自治体から来た方々と働くことで視野が広がり、多くのことを学べる環境になっており、それが役場の明るく開放的な雰囲気を作り出していると感じます。

民間企業で考えると、「同業他社」から人材が集まり、それぞれのノウハウを伝え合っているようなもの。環境は非常に特殊です。「横浜市ではこういうことをやっていた」といった経験が共有され、新しいアイデアを積極的に受け入れる風土があります。閉鎖的な組織ではなく、常に新しい変化を前向きに捉える環境が浪江町役場の特徴です。

Q 未来の浪江町役場職員へのメッセージ

浪江町で働く意義は、一地域の仕事を越えた重要性を持っていると思います。ここで働くことで、復興に直接貢献できると実感しています。

浜通りの再生は福島県全体の未来を左右する大きな挑戦で、浪江町はその最前線。原発事故からの地域再生は世界的にも注目される取り組みです。

町はまだ未整備なところや発展途上なところもあると思いますが、困難があっても、「これから可能性がある」と前向きに捉えられる環境ですし、「できないこと」として消極的に捉えるのではなく、「これから可能性がある」と肯定的に見られる人に向いている職場です。

浪江町は新しい未来を一緒に創りたいという思いのある方と、一緒に働きたいです。



町で制作するショート動画が評価され、TikTok Awards Japan 2024の公的セクター部門で優秀賞を受賞したものです。



取材に行く時の仕事道具。取材の調整は電話をかけたりと自分から動く仕事で、私の性格的に向いていると思います。



浪江町は飲食店マップがあるほど飲食店が豊富なので、ランチには困りません。写真は町内の「海鮮と食処 くらさか」の海鮮丼

行政職

大柿 光史

入庁/民間企業を経験後、平成27年度入庁

所属/生活支援課2年→産業支援課5年→総務課4年目



Q 浪江町役場を志望した理由

元々浪江で生まれ育ち、震災時は大学4年生時であり東京に住んでいました。その後一般企業に就職しましたが、地元浪江町の状況を知るうちに復興へ携わる意志が大きくなり、「浪江町を残していく仕事をしよう」と転職しました。町民の方々の浪江町への思いを受け継ぎ町を残していくには、若くて身軽な私から町に戻るべきなのではないか、私のような若い人が戻るかどうかが大事なのでは、と思いました。入庁したときは、震災から4年後で、まさに復興がこれからだという時でした。

Q これまでの仕事

採用時配属は生活支援課で、東日本大震災及び原発事故による避難町民の支援業務を行っていました。その後平成29年に産業振興課に配属。5年間勤務した後に、令和4年に総務課へ異動となりました。現在は職員の給与や勤怠管理、人事評価業務、採用に関わる業務など、職員の皆さまのための仕事をする機会が増えたため、職場環境の改善を積極的に行っていきたいです。

Q 思い出深い仕事エピソード

産業振興課での、復興のシンボル施設『道の駅なみえ』の整備一手に任されたことです。引き継いだ当初はまだ計画段階で、国・県・町一体型の大規模プロジェクトに参加することになった形です。経験したことのない業務ばかりでしたが、上司や同僚、様々なステークホルダーの皆さまに支えられながら、用地仕入れの交渉、設計、工事への発注、業者の公募、施工の管理、運営、テナント公募などハード面からソフト面まで全領域を担当しました。

初めて経験することばかりでしたが、全国に1150件ある道の駅を調査し、約100件に足を運んだり、パートナー企業にアドバイスをもらいながら、「こういう道の駅を創りたい」というイメージをつくり上げていきました。「業者に発注して終わり」「ただハード面の施設をつくって終わり」ではなく、復興への想いと魂のこもった道の駅となるようにと、町民の方々にも意見を聴く場を持ったり、パートナー企業に細かく要望したりと、細部までこだわり抜きました。



町民座談会等で話し合い、試作を重ね、魂をこめて創った「道の駅なみえ」のブランドロゴ。



業者の方との打ち合わせを繰り返し、内装で使用する資材など細部までこだわりました。



酒蔵がある道の駅も、全国初。浪江町の特徴を表現しようと企画し実現しました。

復興のシンボル施設『道の駅なみえ』の整備を一手に引き受けたマルチプレイヤー



建設地は、震災前は住宅や田畑が立ち並んでいたエリア。用地仕入の際は、土地所有者お一人お一人と話し合いを重ねていきました。

アイドルのももいろクローバーZがファンを呼び込む地方の賑わいづくりを行っていることを知り、なんとか浪江町でライブを実現したく、事務所に手紙を送ろうと思い立ちました。手紙を読み、快諾いただいて浪江町でのライブが実現されました。今や『道の駅なみえ』はももクロファンの聖地にもなっています。浪江町の賑わいと憩いの場づくりを完成させたい一心で取り組んできました。



Q 浪江町役場の雰囲気

ひと昔前の公務員というイメージ像と違い、現在の浪江町役場の若手職員は町外出身者や民間経験者も多く、固定概念にとらわれない職員が多いと感じます。浪江町のような小規模の自治体職員であれば、直接町民の方とやりとりすることが毎日のようにあるため笑顔と愛嬌は大切かと思います。

Q 最後に、メッセージを！

浪江町役場には「〇〇に挑戦したい、取り組んでみたい」と手をあげる人を応援する土壌があります。交付金など国や県などからの支援があり、大規模なプロジェクトが多数進行していますし、行政としての大きさは小規模なぶん、自分が行った仕事の成果がダイレクトにわかる職場だと思います。公務員は年功序列で一定の昇給をずっとしていくとされているかも知れませんが、浪江町では仕事に向き合う姿勢に対して評価する仕組みをり入れる動きも出てきています。受け身にならず、前のめりに仕事に向き合っていただけの方に来ていただきたいですし、ぜひ町づくりと一緒に進めていきたいです。



無印良品の商品力やブランド力に注目し、全国の道の駅の中で初めて誘致に成功。



株式会社ポケモンとのコラボを企画。全国初のラッキー公園が「道の駅なみえ」の敷地内に開園。

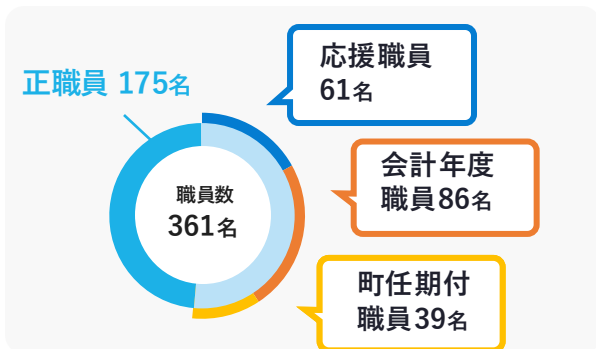


職員採用情報



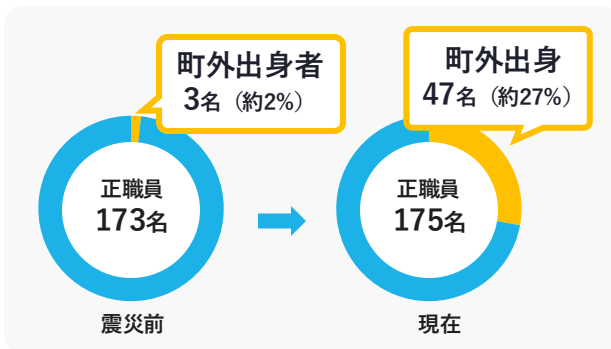
数字で見る浪江町

● 浪江町役場職員数



総数361名 / うち正職員175名
 国・福島県・他自治体民間からの応援職員：61名
 会計年度職員：86名
 町任期付職員：39名 (令和7年4月1日時点)

● 役場職員の中の町外出身者



震災前：正職員173名のうち町外出身者 3名 (約2%)
 現在：正職員175名のうち町外出身者47名 (約27%)
 (令和7年4月1日時点)

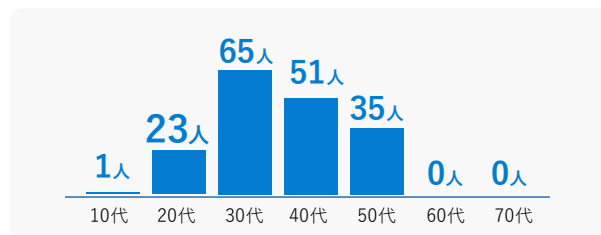
➡ 様々な立場の方々が集まる、多様な職場環境

● 正職員の時間外勤務 令和6年度実績



★ ワークライフバランスも取れる働きやすい職場です ★

● 年代別職員数 (正職員)



★ 幅広い年代の方と共に働ける職場であり、若い力を求めています ★

浪江町で、働きませんか？

今まさに変革の道半ばにある浪江町は、新しい力を求めて積極採用中です。

浪江町役場には様々な業務・職種があり、町の成長とともに、自分自身が成長できる環境です。仕事を通して、浪江町に集まる人々に向き合い、人間力を育むチャンスに溢れています。私たちと一緒に、「新たな歴史を作ってくれる方」を心待ちにしています。



こんな方にご応募いただきたい

- ✓ 好奇心旺盛な方
- ✓ 一見困難なことも実現に向け粘り強く向き合える方
- ✓ 多様性を尊重できる方

浪江町では毎年5月に新規職員の募集をしております。今後、社会人を対象とした採用試験も実施予定です。募集職種はその時々で変わります。お気軽にお問合せください！

お問い合わせ

浪江町役場 総務課

〒979-1592 福島県 双葉郡 浪江町大字幾世橋字六反田7-2
 0240-34-2111 (代表) 0240-34-0235 (直通)
 namie110@town.namie.lg.jp



浪江の最新情報を随時発信しています！



YouTube



Facebook



Twitter